

「ホジュン」再び



10年ほど前でしょうか。夫がとても面白いからと言って、<許浚>（ホジュン）という本を手渡してくれました。魅せられて、一気に読み、それが終わると同時に韓国TVドラマDVD「ホジュン」を借りにつつやに日参いたしました。それほど引き込まれた物語です。韓流ドラマ「冬ソナ」にハマって以来、韓流ドラマは数多く見るチャンスがありましたが、これは見ごたえのあるドラマです。今度パソコンの無料動画で、再び、熱心に見ています。

主役は若い頃の、歌手・橋幸夫氏似の俳優ですから親しみがもてます。ドラマの人物は、どの人も一癖も二癖もありそうな俳優が演じていて、しかも日本人には過剰とも思える韓国人自慢の感情表現の豊かさがありますから、非常に楽しく見ることができます。

ホジュンは下級貴族階級の武官の妾の子として生まれ、学問は受けることができたものの、その出自のため屈辱を味わい尽くします。彼が自暴自棄に暴れまわっていた時、一人の女性の愛と誇りに生きる姿に触れ、また儂げな美しさに惹かれ、彼女を支えずにいられない衝動にかられ、そのため逃亡の身となります。隠れ住んでいる村で、貧しい患者を慈しみ、最善の治療を施す一人の医者生き方に衝撃を受け、その人の元で、忍耐と鍛錬を繰り返しながら、医者になる道を模索していきます…と言うのが出だしです。

ストーリーは、儒教の縛り、身分制度、貧富の差、識字の差、あらゆる差別構造の底辺から自力で這い上がって、最高の名医となっていくというものですから、相克が激しく、私のもっとも好きなパターンの物語展開なのです。主人公は鍼灸、漢方薬などの当時の治療方法を超えて、朝鮮独自の薬草を見出し、人体の構造を知り、外科手術まで進むという破格の精進をします。尊敬する恩師の説く、「心医」（仁）になるため心を砕きます。この点が、貧しい哀れな民衆の生活に寄り添う姿なので、圧巻です。また、貴族の令嬢が身分の違いを超えて妻となり、献身的に支えてくれた愛に応える人でもありました。医者は人間の尊い命を扱う職業であり、同時に人間のもっとも弱く醜い部分に触れる職業でもありますから、真剣でなければならず、同時に常に危険と隣り合わせです。

さて、先日友人が「息子が渋谷でクリニックを開業しました。何かありましたらどうぞ」と名刺を持ってきてくれました。彼の少年時代を知っているので、嬉しくなって、さっそく名刺にあったホームページを開けてみました。立派に成人して、皮膚科の専門医として活躍しておられる様子を窺い知ることができました。そのタイトルページに「～でお困りの方」と様々な症状ごとに、その原因を調べられるようにと、下に様々な病名が記されて、そこをクリックすると、原因、治療法など詳しく説明してありました。私の疾患に関して、なるほどと、知って安心する部分が出てきました。さすが、彼だなあ！と感心してしまいました。彼自身アトピー性皮膚炎で苦しんだので、患者の苦しみが分かり、疾患を克服できるよう手を差し伸べています。

「問い合わせ」という欄がありましたので、一言メッセージを書いて送りました。次の日の朝、私のメールに彼の「お久しぶりです。ご丁寧にご連絡ありがとうございます。お褒めのお言葉大変恐縮です。ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。」という丁寧なお返事を発見！お忙しいでしょうにとこちらが恐縮しました。ますます彼に精進してもらい、「ホジュン」再び と願っています。

「許浚」(ホジュン)は、約400年前の朝鮮(李)王朝時代(中期)に『東医宝鑑』という不朽の医書を著した実在の名医。

著者 李恩成氏『小説 東医宝鑑』(上・中・下3冊、ソウル・創作と批評社刊・1990年)

日本語訳者 朴菴熙氏 日本語版(改題)『許浚』